

第6次高浜市総合計画推進会議（第3回） 会議録

日時	平成28年8月5日（金）午後7時～8時25分		
場所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	3名
出席者	委員	中川幾郎、酒井康満、岩月義成、菅野洋一、高桑雄司、竹内一仁、田代峯子、内藤靖子、古橋知美、宮田克弥、神谷坂敏（11名出席）	
	行政	市長 吉岡初浩 教育長 都築公人 総務部長 内田徹 市民総合窓口センター長 大岡英城 福祉部長 加藤一志 こども未来部長 中村孝徳 都市政策部長 深谷直弘 議会事務局長 加藤元久 文化スポーツグループ リーダー 鈴木明美 学校経営グループ リーダー 内藤克己 学校経営グループ 主幹 岡本竜生 こども育成グループ リーダー 都築真哉 地域産業グループ リーダー 板倉宏幸 市民生活グループ リーダー 芝田啓二 都市整備グループ リーダー 田中秀彦 都市防災グループ リーダー 神谷義直 地域福祉グループ リーダー 木村忠好 保健福祉兼生涯現役まちづくりグループ リーダー 磯村和志 人事グループ リーダー 杉浦崇臣 行政グループ リーダー 山本時雄 企業支援グループ リーダー 島口靖 上下水道グループ リーダー 杉浦睦彦 介護保険・障がいグループ リーダー 竹内正夫 福祉まるごと相談グループ リーダー 野口真樹 (24名出席)	
	事務局	企画部長 神谷美百合 総合政策グループ リーダー 野口恒夫 同 主幹 榊原雅彦 同 主査 山本久美 同 主事 稲垣翔太 同 主事 岡田真吾 同 主事 加古博紀 同 主事 川合晃三 (8名出席)	

次 第	1 あいさつ 2 議題 1) 「施策評価シート」(内部評価)の発表について〔基本目標Ⅲ・Ⅳ〕 2) 総合戦略における成果指標とK P Iについて 3 その他
資 料	資料1：高浜版総合戦略における成果指標と各取組みに係るK P I（重要業績評価指標）の結果

1. あいさつ

- 会 長： ・本日は、前回の第2回推進会議に引き続き、中期基本計画に掲げた目標の達成状況を点検・確認するという事で、行政内部でとりまとめた「施策評価シート」の内容を発表していただく。
- ・本日は、基本目標Ⅲ（産業振興・環境保全・都市基盤整備・安心安全に関する分野）、及び基本目標Ⅳ（地域福祉・健康に関する分野）の発表となる。

2. 議題

1) 「施策評価シート」（内部評価）の発表について〔基本目標Ⅲ・Ⅳ〕

- 会 長： ・まずは基本目標Ⅲの発表ということで、第2回でも使用した資料2の42ページ、目標（6）の発表からお願いしたい。
- 行 政： <資料2 42～45ページを基に発表>
- ・かわら美術館を活動拠点とし、高校生レストランの仕掛け人である岸川政之氏の支援を受けながら、コミュニティ・ビジネスの手法を活用した高浜高校生の活躍の場を創出している。
- 会 長： ・ただいまの発表でご意見等があればお願いしたい。
- 委 員： ・コミュニティ・ビジネス発掘の実績は。
- 行 政： ・現在チャレンジャーとして、市内在住の30代の男性が1名。高浜で何ができるかといった理念形成・意志の確認を行っている。
- ・今年度コミュニティ・ビジネスのフォーラムを開催し、15・16名の参加があった。
- 委 員： ・新たな観光資源は具体的に何か見えているか。
- 行 政： ・高校生のコミュニティ・ビジネスの中で7名が手を挙げてくれ、フィールドワーク等を通じながら模索していく。
- 委 員： ・高校生に頼るだけのように見えてしまう。
- 行 政： ・高校生の視点を活用することは、一つの切り口として考えている。
- ・その他、観光協会が主催の「観光案内所創造委員会」の中でも、高浜の新たな観光資源について発掘している。
- 委 員： ・高浜は今後観光・産業などどの分野に重点を置いて施策を進めていくのかといった、根本的な議論をすることが必要であると感じる。
- 委 員： ・ジャンボ落花生の進捗は。
- 行 政： ・実績として、26年度については耕作面積が700㎡、耕作者が28名であったが、27年度では耕作面積3,000㎡、耕作者が31名と順調に拡大している。
- ・今後高浜市としてどう拡大していくか、予算を付けて力を入れて進めていくのかについては、慎重に議論していく必要があると認識している。
- 委 員： ・農業関係の取組みの進捗は。
- 行 政： ・農業経営の法人化については、農業従事者が法人化したいという意向であれば市として支援していく。市の方から法人化すべきだというふうには話を進めては実現しないと認識している。

- 委員：・刈谷市については集落営農、安城市では営農組織が法人化に結びついている。
- 委員：・農業経営の法人化はぜひ進めてほしい。
- 委員：・鬼師を題材とした単行本が発行されていることについて、PRの強化と継続性を明確にしてほしい。
- 行政：・単行本の紹介については、観光案内所で目に触れるようにしているが、今後どう具体的にPRしていくかは検討中である。
- 会長：・続いて、46ページ 目標（7）をお願いしたい。
- 行政：
 - ＜資料2 46～49ページを基に発表＞
- 会長：・ただいまの発表でご意見等があればお願いしたい。
- 委員：・子どもに対する環境学習・イベントは具体的にどういったことを考えているか。
- 委員：・子どものうちから環境に関心を持つことは大変重要である。子どもたちへの環境学習施策は強く進めていただきたい。
- 行政：・職員が講師となって講座を開いたり、施設の紹介などを行っている。非常に重要な取組みであると認識しているため、今後さらにどう広げていくかが課題である。
- 会長：・続いて、50ページ 目標（8）をお願いしたい。
- 行政：
 - ＜資料2 50～53ページを基に発表＞
- 会長：・ただいまの発表でご意見等があればお願いしたい。
- 委員：・道路等各施設の老朽化はどう把握しているのか。
- 行政：・市内の幹線道路については、2年前に道路の轍やひび割れなどを全て調査している。その結果を基に、劣化がひどいところを重点的に修繕している。
- 委員：・橋梁については、橋梁点検士により点検している。
- 委員：・緊急を要する修繕箇所はあるのか。
- 行政：・道路についてはすぐに修繕すべき箇所はあり、2年後には完了する予定。
- 委員：・予防保全型の維持管理とは具体的には。
- 行政：・道路については、交通量の調査を昨年度から実施し、舗装の劣化状況等を含めて事前に轍の補修をするなどが1つの事例である。
- 委員：・いきいき号の利用者が昨年度減少した要因はつかんでいるか。
- 委員：・路線等見直しについて、具体的には。
- 行政：・利用者減の要因は不明である。
- 行政：・今後の見直しについて、8月26日に地域公共交通会議を開催し、バス停の変更を2ヶ所予定している。清水町のバス停を郷中の方へ移動させるのと、南部保育園のバス停をあつぽに移動させる。
- 委員：・もう一点、刈谷市コースと市内コースの利便性（待ち時間短縮）を高めるため、市内コースの出発時間を5分遅らせる予定をしている。
- 委員：・市民意識調査結果の10歳代の割合が低下している要因は。
- 行政：・推測されるのは、市内で住宅のミニ開発が頻繁に起きており、小さな公園はできるが、子どもたちが求める大きな公園ができていないことが要因と考えられる。

- 委員：・中部公園にある小川が干上がっている。水を流すことは難しいか。
- 行政：・もともと水源がないところに川を作っている。大山公園でも井戸の水を循環させることを行ったが、水質が良くないことや故障が頻繁に起こることなどもあり、なかなか踏み切れていない。
- 委員：・目標（7）についてであるが、環境美化推進員はどういった人が担っており、また、大きく数が伸びている要因は何があるか。
- 行政：・企業や学校の方などが推進員として登録いただいております、ここ2年間学校単位で推進員になっていただいていることが数の増の要因である。
- 会長：・続いて、54ページ 目標（9）をお願いしたい。
- 行政：　　＜資料2 54～57ページを基に発表＞
- 会長：・ただいまの発表でご意見等があればお願いしたい。
- 委員：・赤色防犯灯の活用について、翼地区では効果が出ている。他学区で広める予定はあるか。
- ・企業でも積極的に交通安全活動を実施している。市としてしっかりPRしてほしい。
- 委員：・地域行動計画とこれまでの計画の違いは。
- 行政：・赤色防犯灯の活用については、昨年度の防犯ネットワーク会議の中で、翼まち協さんから先進的な事例紹介ということで発表していただき、昨年度より他学区でも少しずつ広がりを見せている。
- ・企業の交通安全活動について、今後は積極的にPRをしていく。
- ・地域行動計画は、新たに作った計画である。作った経緯としては、実際に避難する際に1つの流れとして示した方がわかりやすいのではないかとこのところ。計画に挿入している「避難行動チェックシート」を広報8月15日号と同時配布している。
- 委員：・10歳代の市民意識調査結果の割合が低下している。子ども防災リーダーの養成など、子どもたちの防災の機運は高まっていると思われるが、低下の要因を掴んでいるのであれば施策に活かしてほしい。もし掴んでいないのであれば、学校の授業の中で意見を拾うなどしてほしい。
- 行政：・小学5・6年の総合学習での防災の学習や子ども防災リーダー養成講座等の取り組みなどによる防災意識の高まりが、逆に数値を下げた要因かもしれない。今後調査・分析を進めていく。
- 委員：・防犯カメラの設置場所などは、地域の声を聞きながら検討してほしい。
- 行政：・町内会の防犯部長やまち協の防犯グループリーダー、警察などからなる「高浜市防犯ネットワーク会議」の中でご意見を聞きながら検討していきたい。
- 会長：・続いて、基本目標Ⅳの発表に入る。58ページ 目標（10）をお願いしたい。
- 行政：　　＜資料2 58～61ページを基に発表＞
- ・生活困窮の学習支援において、学習支援を受けていた中学生が高校に進学し、今年度より実施している小学校高学年のひとり親家庭への学習支援のボランティアを行っているという例がある。

- ・また、食事の提供は行えないが、食材の提供や基金の寄付であれば支援ができるといったつながりもできている。
- 会 長： ・ただいまの発表でご意見等があればお願いしたい。
- 委 員： ・避難行動要支援者支援について、高浜小学校区がモデルで進めている個別計画作成の進捗、及び今後他学区でどのように進めていくか。
- 行 政： ・高浜まち協との話し合いの中で、町内会の班長が中心となって作成しようということになった。班長は班員の全ての人を知っているわけではないため、困難を極めたが、町内会加入者の半分程度の方が活動に参加していただいた。その中でも、支援計画が必要な方のおよそ半分から計画作成の同意を得た。
- ・今後他学区では、高浜まち協の事例を紹介しながら進めていくが、進め方については各まち協さんと検討していく。
- 会 長： ・続いて、62ページ 目標（11）をお願いしたい。
- 行 政： ・<資料2 62～65ページを基に発表>
- 会 長： ・ただいまの発表でご意見等があればお願いしたい。
- <意見・質問等なし>

2) 総合戦略における成果指標とKPIについて

- 会 長： ・議題2について、事務局より説明をお願いしたい。
- 行 政： ・昨年度策定した高浜版総合戦略であるが、作って終わりではなく、指標を定め、その進捗状況をしっかりと管理していくという観点から、成果指標やKPI（重要業績評価指標）を設定し、その達成状況に応じ、毎年度見直しを行っていくこととしている。
- ・本市の総合戦略については、総合計画をベースに作成をしており、すでにしっかりと委員の皆さまに進行管理いただいている総合計画と整合性のある総合戦略としている。
- ・そのため、総合戦略に掲げる取組みや指標は、総合計画に掲げるアクションプランやみんなで目指すまちづくり指標とほぼ同じとしている。
- ・総合戦略だけに特化した進行管理を行わずとも、この会議においてご議論いただき、それに応じてアクションプランが見直しされることで、そのまま総合戦略の見直しにもつながることになる。
- ・総合戦略のすべての取組みの効果を測定するために、総合計画とは別に2つの成果指標「出生数」と「若い世代の社会増減」を目標設定している。
- ・出生数については、平成26年と比べ平成27年は12人の増となっている。目標としている数値を目指すには年19人の増が必要となるが、少子化が言われる中で、増となったことは評価できる部分である。
- ・若い世代の転出超過の抑制については、平成26年は0歳～9歳、25歳～39歳で転出超過となっていたが、平成27年はいずれも大幅な転入超過に転じている。
- ・住宅着工件数を調べたところ、戸建て住宅の着工件数については、平成26

年度と平成27年度を比べたところ大きな差はなかったが、木造の共同住宅（アパート）を見ると、平成26年度は1年間に11棟の新築であったが、平成27年度は1年間で26棟が新築されている。

・若い世代を受け入れるところの新築が多かったことが、転入超過へとつながった理由の一つであると考え。

会 長： ・総合戦略に掲げる成果指標をわざわざ作る必要がないのが高浜。総合計画をしっかりと作っているため、その指標をそのまま転用すれば十分対応可能ということ。ただし、それだけでは人口増の観点から指標が足りないという考えから、出生数と若者の社会増を指標として入れているということ。

・ただいまの説明について、ご意見・ご質問等あればお願いしたい。

委 員： ・若者の人口増について、アパートの建築数が増えたからという分析であるが、どういった点が気に入られて人口が増えたのかということを踏み込んで分析してほしい。

・外国人の人数は入っているのか。

行 政： ・詳細な分析については検討したい。

・転入・転出には、外国籍の方も含まれている。若い世代の外国籍の方もかなり増えており、30～34歳では、日本人と外国籍の方は同等数増えている。

委 員： ・このKPIは今後細分化されるのか。

行 政： ・先ほど会長からも話があったとおり、総合計画と総合戦略の指標は同一のものとしており、総合計画の指標がもう少し細かくなれば、KPIも細分化される。

会 長： ・最後に委員の皆さま方お一人おひとりから、本日の感想や、前回第2回推進会議も含め、全体を通してのコメントをいただきたい。

委 員： ・施策が多くて大変だと思うが、頑張ってください。

委 員： ・今年度も良い成果が出るように頑張ってください。

委 員： ・いろんな施策が行われているが、やったら終わりではなく、そこに関わった人たちがステップアップして次にも関わってくれるよう、つながりを丁寧に持つことが大切である。

委 員： ・PDCAを何度も回して、良い成果が得られるように期待している。

委 員： ・指標で変化点の多い所に何らかのヒントがある。今回は10代の子どもにヒントがあると思われるので情報収集をお願いしたい。

・KPIは足かせにならないようにうまく使ってほしい。

委 員： ・部長の実行宣言の顔写真がとても良かった。

・8月8日は三州瓦PRの日。誰か言ってくれるかなと思ったが・・・。

委 員： ・実際に肌で感じていることが数値に表れている。まちを少しでも良くするよう頑張ってください。

委 員： ・高齢者がホコタッチを持ってまちなかを歩くようになると良いと思う。

行 政： ・現在、ホコタッチをタッチするとポイントがたまり、商品に交換できる仕組みを構築している。

委 員： ・施策を実施してまちが良くなることを期待している。

- ・ 5・10年たつと過疎化が進む。次回以降の推進会議でそういった話もできたらと思う。
- 委員：
- ・ 貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。皆さんの意見を前向きに検討していく。
 - ・ 産業の指標の低下については、市民意識調査期間中に熊本地震が発生したことによる瓦の風評被害も一因にあると思われる。三州瓦の産地間競争に勝った責任があると思っている。未来永劫残していく思いである。
 - ・ 高浜市では人口減少の前に納税者の減が先に来る。その対応のため企業誘致を進める。年末までに造成が始まる豊田町と、同時に進めている吉浜地区が目に見えるような形になれば、産業活性化の指標も改善されていくと思われる。
 - ・ 空き家の活用についても検討していく。
- 会長：
- ・ 今回の指標結果を見ると、下降線に入ってきた。高齢化、少子化、人口減少の波は避けては通れないという表れ。「暮らしやすい環境が形成されていると感じている人の割合」が減っていることから、心の中で不安を感じている人が増えているのかもしれない。そういう分析を突っ込んでやったほうがいい。
 - ・ 10代は敏感に感受するので、結果を甘く見ない方がいい。彼らを感じていることは5・10年後に実現していくこと。そこに対して手を打つ・行動するというアクションがほしい。
 - ・ 全てが高浜の内部要因で変わるものばかりではない。社会環境の変化も大きく影響するため心配する必要はないが、足元をすくわれる危険性もある。
 - ・ SWOT分析を常に意識する必要がある。これを意識した要因分析の記述が少ない。
 - ・ 活力があるうちに、高齢化、少子化、人口減少に対する予防施策に手を打つ必要がある。
 - ・ 事前に送付されている「コメント用紙」に、本日の発言だけでは言い足りなかった点などがあれば、前回発表のあった目標（1）から（5）に対するコメントと合わせて、8月8日（月）までに事務局へ提出をお願いしたい。

3. その他

- 会長：
- ・ 「その他」に入る。事務局から何かあればお願いしたい。
- 行政：
- ・ 次回第4回推進会議は、8月23日（火）午後7時からとなる。
 - ・ 次回までに、委員の皆さんからいただいたご発言・コメントを施策評価シートのV.「推進会議による点検・確認結果」欄に落とし込み、施策評価シート（案）を完成させる。
 - ・ 次回推進会議では、その内容を1目標ずつ協議いただき、その後、市長へ「点検・確認結果」として提出する回となる。
- 会長：
- ・ 次回第4回推進会議では、第2回・第3回推進会議で委員の皆さま方からいただいたご意見を反映し、シートを修正した箇所について行政から説明をい

ただき、その後市長へ「点検・確認結果」を提出する回となるのでお願いしたい。

- ・これをもって、第3回総合計画推進会議を終了する。